

この添付文書をよく読んでから使用してください。

体外診断用医薬品

※※2010年8月改訂（第6版）

※2009年9月改訂（第5版）

承認番号20400AMY00060000

品番 **20 907**

培養同定・一般細菌キット

アピ コリネ

(API Coryne)

コリネ型細菌の同定用

【全般的な注意】

- 本品は、体外診断用であり診断以外の目的に使用しないで下さい。
- 診断は他の関連する検査結果や臨床症状等に基づいて総合的に判断して下さい。
- 添付文書以外での使用方法については保証致しません。
- 使用する機器の添付文書等をよく読んでから使用して下さい。

【形状・構造等（キットの構成）】

＜構成試薬の名称＞

1. アピコリネ プレート（基質）の成分

No.	基質	記号
(1)	硝酸カリウム	NIT
(2)	ピラジンカルボキサミド	PYZ
(3)	L-ピログルタミン酸-β-ナフチルアミド	PyrA
(4)	β-ナフチルリン酸	PAL
(5)	ナフトール ASBI- β-D-グルクロン酸	βGUR
(6)	2-ナフチル-β-D-ガラクトピラノシド	βGAL
(7)	β-ナフチル-O-D-グルコピラノシド	αGLU
(8)	α-ナフチル-N-アセチル-β-D-グルコサミニド	βNAG
(9)	エスクリン	ESC
(10)	尿素	URE
(11)	ゼラチン	GEL
(12)	陰性コントロール	0
(13)	ブドウ糖	GLU
(14)	D-リボース	RIB
(15)	D-キシロース	XYL

(16)	D-マンニトール	MAN
(17)	マルトース	MAL
(18)	乳糖	LAC
(19)	白糖	SAC
(20)	グリコーゲン	GLYG

2. 滅菌精製水

3. GP 培地

<付属品>

ー培養容器	12組
ーマクファーランドスタンダード濁度 6	1本
ー成績記入用紙	12枚

【使用目的】

コリネバクテリアの同定

【測定原理】

<原理>

アピ コリネプレートは、酵素活性または炭水化物の発酵試験のための乾燥基質を含む20のマイクロチューブで構成されています。酵素反応試験では高濃度菌液を用いて酵素基質を溶解します。培養中に基質が代謝されることにより色が変わります。色の変化は自発的または添加試薬を加えることにより起こります。発酵試験では、専用培地（pH指示薬を含む）で調製した菌液を接種して各種糖基質を溶解します。炭水化物の発酵による酸産生性をpH指示薬の自発的色調変化によって検出します。反応は、判定表に従って判定し、同定は同定ソフトウェアを使用して行います。

<特徴>

アピ コリネは、コリネ型細菌を24時間で同定するために標準化されたシステムで、縮小サイズの試験と専用データベースで構成されています。本同定システムの同定可能菌種は、本添付文書の最後にある“陽性率表”に示されています。

【操作上の注意】

- 検体（採取及び前処理）
臨床材料や他の検体を直接使用してアピ コリネで試験することはできません。試験に使用する菌株は、通常の細菌検査法に従って適切な培地で分離培養する必要があります。
- アピ コリネは、専用のデータベースに含まれているコリネ型細菌（*Corynebacterium* 及び関連菌種）の同定のみを行います（“陽性率表”を参照し

て下さい)。データベースに含まれない菌種の同定やデータベースに含まれていない菌種であることを確認する目的には使用できません。本品のデータベースは、臨床材料から最も高い頻度で分離されたコリネ型細菌に制限されます。

- 単一コロニーの純培養菌のみを使用して下さい。
- 稀に、アピ コリネプレートで生化学性状反応が、2 菌種を区別するのに不十分な場合があります。この時は、必ず追加試験を実施して下さい。また、この場合は注記が報告されます。追加試験の解説及び参考文献は、テクニカルブローシャー（同定ソフトウェアの生化学情報）に示されています。
- *C. diphtheriae*として同定された場合、分離株が病原性を示すかどうか確認するために毒素試験を必ず実施して下さい。
- 菌液は、マクファーランド濁度 6 かそれ以上に調製して下さい。マクファーランド濁度 6 未満の菌液を用いるとアピ コリネの性能が低下します。マクファーランド濁度 6 を超える菌液濃度は、性能を向上させることがあります。

【用法・用量（操作方法）】

＜試薬の調製方法＞

- 滅菌精製水は、包装に表示されている使用期限まで 2～30℃で保存して下さい。
- 添加試薬は 2～8℃で暗所に保存してください（NIT 1 試薬および ZYM A 試薬は 2～30℃で保存してください）。使用期限は外箱の☐マークに記載してあります。添加試薬は、滴ビンに移し替えた日付を記入し、開封後 1 ヶ月以内に使用してください。
- ZYM B 試薬および PYZ 試薬は光に非常に過敏なので、アルミホイルに包んで冷暗所に保存し、使用時にのみ冷蔵庫から取り出しすぐに戻してください。
- PYZ 試薬は水および空気に非常に過敏なので、乾燥したピペットを用いて滴ビンに移し、しっかりふたを閉めてください。
- ZYM B 試薬は通常黄色ですが、劣化するとピンク色に変色する場合があります。変色したものは使用しないでください。
- ※ ● ZYM B 試薬の有効性を確認するために、本添加試薬を調製後最初に使用する際は、アンプル毎に品質管理試験を行ってください。品質管理試験菌株は、6 ページに記載の *Cellulosimicrobium cellulans* ATCC® 27402 を用いることをお勧めします。
- ZYM A 試薬は 2～8℃で保存中に沈殿を生じることがありますが、性能には影響がありませんので、試験室内に放置して沈殿が消失してから使用してください。

＜必要な器具・器材・試料等＞

本品を使用の際に必要な試薬及び器具

試薬

- －NIT 1 + 2 試薬（品番70442）
- －ZYM A 試薬（品番70494）
- －ZYM B 試薬（品番70493）
- －PYZ 試薬（品番70492）
- －ミネラルオイル（品番70100）

- － 3 %過酸化水素水
- －デンシマット
- －apiwebTM同定ソフトウェア（品番 40011）（バイオメリュー製品）
- －コロンビアCNA 5 %ヒツジ血液寒天培地（品番43071）またはコロンビア5 %ヒツジ血液寒天培地（品番43041）
- －トリプケースソイ 5 %ヒツジ血液寒天培地（品番43001）

器具

- －アビペット
- －アンプルプロテクター
- －アンプル立て
- －綿棒
- －微生物試験用実験器具類

<測定（操作）法>

コロニーの選択

単一に分離された同定試験用菌株が、グラム陽性、無芽胞、通性嫌気性桿菌であることを確認して下さい。

- ・ 溶血性タイプの確認
- ・ 単一コロニーを0.3mL滅菌精製水に懸濁して下さい。
- ・ 平板培地（トリプケースソイ 5 %ヒツジ血液寒天培地またはコロンビアCNA 5 %ヒツジ血液寒天培地）に塗抹して下さい。
- ・ 37℃で24～48時間培養します。

プレートの準備

- ・ トレイと蓋からなる培養容器を準備し、約 5 mLの蒸留水または脱イオン水（またはCl₂、CO₂などのガスを放出する可能性のある添加物や化合物を含有しない水）を凹凸のあるトレイに入れて、湿潤環境を作ります。
- ・ トレイのフラップ部分に、試験に用いる菌株の情報（検体番号等）を記載します。（操作中に蓋がプレート間で入れ替わる危険があるため、蓋に記入することは避けて下さい。）
- ・ 包装を開封してプレートを取り出します。
- ・ プレートを培養容器に入れます。

菌液の調製

- ・ 本添付文書中の“使用上または取扱い上の注意”で指示されている方法で滅菌精製水のアンプルを開けます。
- ・ 綿棒を使って寒天培地から全ての培養菌を採取します。採取した菌は、培養時間が24～48時間の若いものを使用して下さい。
- ・ 菌液は、マクファーランド濁度 6 以上になるように調製し、直ちに使用して下さい。

プレートへの菌液接種

- 最初の試験項目（NIT ～ GEL）に菌液を接種して下さい。チューブ底部に気泡が形成されるのを避けるため、プレートを僅かに前方に傾けて、アビピペットの先をカップの側面に付けて操作します。
 - －NIT～ESCの各カップに約100～150 μ Lの菌液を接種します。
 - －UREは、チューブ部分にのみ菌液を接種します。
 - －GEL 試験にはカップ及びチューブの両方に菌液を接種します。
- プレート後半の9試験項目（0～GLYG）
 - －“使用上または取扱い上の注意”の項の指示に従って、GP 培地が入ったアンプルを開け、残りの菌液約0.5mLをGP 培地に接種します。よく混和します。
 - －菌液をチューブ部分のみに接種します。
- 下線の付いたURE及び0～GLYG試験項目のカップには、凸面状になるまでミネラルオイルを滴下して下さい。
- 培養容器に蓋をして下さい。
- 好気条件下で36 $\pm$ 2 $^{\circ}$ Cで24時間（ $\pm$ 2時間）培養して下さい。

【測定結果の判定法】

プレート判定

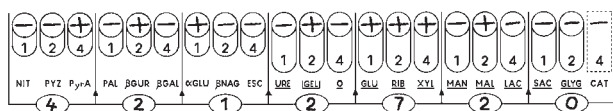
培養後の判定：

- 添加試薬の添加：
 - －NIT試験：NIT 1 及びNIT 2 試薬を各1滴ずつ添加する。
 - －PYZ試薬：PYZ試薬を1滴添加する。
 - －PyrA, PAL, β GUR, β GAL, α GLU, β NAG試験：ZYM A及びZYM B試薬を各1滴ずつ添加する。
- 10分後、判定表に従って反応の判定を行って下さい。必要に応じて、PyrA～ β NAGのチューブ内の過剰反応を除くために1000W相当の光を照射して下さい。
- カタラーゼ試験（21番目の試験）：ESCまたは GEL 試験に3%過酸化水素水を1滴添加して下さい。1分後、泡の発生が見られた場合、陽性とします。
- 成績記入用紙に全ての判定結果を記入します。

解析

同定はプロファイル番号を用いて行います。

- プロファイル番号の決定：
成績記入用紙上で、各試験項目は3つずつのグループに分けられ、各項目に1、2、4の数値が与えられています。グループ毎に陽性反応を示した数値が加算され、7桁のプロファイル番号が得られます。カタラーゼ反応は21番目の試験として加え、陽性の場合は4を加算します。
- 同定：
専用データベース（V 3.0）を使用して実施します。
*apiwebTM同定ソフトウェアを用いる場合：
コンピュータのキーボードを使って7桁のプロファイル番号を入力します。



4 212 720 *Arcanobacterium pyogenes*

■品質管理

本培地、プレート及び試薬は、各製造工程において体系的に品質管理が行われています。施設毎にプレートの品質管理を実施する場合は、下記の菌株を使用することをお勧めします。

1. *Corynebacterium renale* ATCC 19412または下記の菌株の1つを使用することをお勧めします。
2. *Cellulosimicrobium cellulans* ATCC 27402
3. *Microbacterium testaceum* * ATCC 15829

ATCC：American Type Culture Collection, 10801 University Boulevard, Manassas, VA 20110-2209, USA.

	NIT	PYZ	PyrA	PAL	βGLU	βGAL	αGLU	βNAG	ESC	URE	LGEL	0	GLU	RIB	XYL	MAN	MAL	LAC	SAC	GLY	CAT
1.	-	+	-	-	+	-	-	-	-	+	-	-	+	+	-	-	-	-	-	-	+
2.	+	+	+	+	-	+	+	+	+	-	V	-	+	+	+	-	+	-	+	V	+
3.	-	+	-	V	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+

*データベースには含まれていません。

- 上記結果はコロニア5%ヒツジ血液寒天培地（品番43041）で培養したコロニーから得られたプロファイルです。
- デンシマットでマクファーランド濁度6～7に調製した菌液を使用。
- 各国の定める規則に従って、本キット使用者の責任のもとで品質管理を実施して下さい。

【性能】

- 感度・正確性
標準試験菌株を用いて、「用法・用量（操作方法）」欄に記載の方法に従って試験するとき、その同定結果は、用いた標準試験菌株の菌種名と一致します。
- 同時再現性
標準試験菌株を用いて、「用法・用量（操作方法）」欄に記載の方法に従って3回同時に試験するとき、同定結果は3回とも用いた標準試験菌株の菌種名と一致します。
- 測定範囲
本品の使用は、コリネバクテリアの同定に限られます。

< 相関 >

本データベースに属する保存菌株及び各種材料由来の菌株1,880株が検討されま

した：

- 97.71%の菌株が正確に同定されました（追加試験を含む）。
- 1.28%の菌株は同定不能でした。
- 1.01%の菌株は誤同定でした。

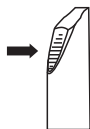
【使用上または取扱い上の注意】

＜取扱い上（危険防止）の注意＞

- 体外診断用医薬品及び微生物制御検査用
- 微生物試験従事者が使用して下さい。
- 本キットには動物由来製品が含まれます。使用動物の由来や衛生状態は保証されていますが、これは感染性病原体による製品汚染がないことを完全に保証するものではありません。従ってこれらの製品は感染性を有するものとして扱い、飲んだり吸い込んだりしないよう、通常の安全予防策を守って取り扱うことをお勧めします。
- ※ 検査材料、細菌培養、および接種菌液はすべて感染性があるものとして、適切に取り扱う必要があります。検査全体を通じて、細菌を扱う際には無菌操作の実施と通常の注意を払う必要があります。この件に関しては、“CLSI M29-A, *Protection of Laboratory Workers from occupationally Acquired Infections ; Approved Guideline - Current revision*”を参照して下さい。取扱い上の注意の追加情報としては、“Biosafety in Microbiological and Biomedical Laboratories - CDC/NIH - Latest edition ”または各国で現在使用されている規程に準拠して下さい。

※※＜使用上の注意＞

- 使用期限を過ぎた試薬は使用しないで下さい。
- 使用する前に、各試験用試薬及び包装に破損がないことを確認して下さい。
- カップなどの変形が見られるプレートは使用しないで下さい。
- 下記のように、注意してアンプルを開けて下さい。
 - アンプルをアンプルプロテクターに差し込んで下さい。
 - アンプルプロテクターに入ったアンプルを片手で垂直に持って下さい（白色プラスチックキャップが上になるように立てます）。
 - キャップをできる限り下向に押します。
 - キャップの溝面部分に親指を置き、前に押出してアンプル先端部を折ります。
 - アンプルをアンプルプロテクターから取り出し、次の使用のため近くに置きます。
 - キャップを注意深く取り除きます。
- 添付文書に示されている性能データは、本書に記載された操作方法を用いて得られたものです。方法の変更や修正は、同定結果に影響する可能性があります。
- 試験結果の解釈は、患者の病歴、検査材料の由来、分離菌株のコロニー形態や鏡検像及び必要となった際に実施される他の検査結果（特に薬剤感受性パターンの結果）を考慮して行う必要があります。



- 期待値結果の範囲
各種生化学性状反応の期待値結果の範囲については 本添付文書の最後に記載されている“陽性率表”を参照して下さい。

<廃棄上の注意>

使用後試薬、未使用試薬及び汚染された器具類は、感染の危険性があるものとして適切に廃棄して下さい。廃棄物や廃液の取扱は、その種類や危険度に応じて適切な規程の元に各施設で責任を持って処理及び廃棄（外部専門業者に処理及び廃棄を依頼する）を行って下さい。

【貯蔵方法・有効期間】

アピコリネプレート及びGP 培地は、包装に表示されている使用期限まで2～8℃で保存して下さい。

有効期間は12ヶ月です。使用期限は、プレートのパッケージおよび外箱の☒マークに記載してあります。

【包装単位】

12回用

【主要文献】

1. BORLING S.L., KONEMAN E.W., HARRIS E.E., ALLEN S.D. Identification of *Corynebacterium* species with the RAPID CORYNE System. (1993) Atlanta, ASM Meeting, Abstract N° C330.
2. FRENEY J., DUPERRON M.T., COURTIER C., HANSEN W., ALLARD F., BOEUFGRAS J.M., MONGET D., FLEURETTE J. Evaluation of API CORYNE in Comparison with Conventional Methods for Identifying Coryneform Bacteria. (1991) J. Clin. Microbiol., 29, 38-41.
3. FUNKE G., RENAUD F.N.R., FRENEY J. *et al.* Multicenter evaluation of the updated and extended API (Rapid) Coryne database 2.0. (1997) J. Clin. Microbiol., 35, 3122-3126.
4. GAVIN S.E., LEONARD R.B., BRISELDEN A.M., COYLE M.B. Evaluation of the Rapid CORYNE Identification System for *Corynebacterium* Species and Other Coryneforms. (1992) J. Clin. Microbiol., 30, 1692-1695.
5. KERR K.G., HAWKEY P.M., LACEY R.W. Evaluation of the API CORYNE System for Identification of *Listeria* species. (1993) J. Clin. Microbiol., 31, 749-750.
6. MIKI K., SAKO H., INOUE K., SAKAZAKI R. Evaluation of the API CORYNE identification system for nonsporeforming, Gram-positive rods. (1993) Journal of the Association Rapid Method and Automation in Microbiology, 5, 131-135.
7. PELOUX Y., CANIAUX I. Identification des corynébactéries et germes apparentés - Apport d'une nouvelle galerie d'identification : API CORYNE. (1990) Feuilles de Biologie, 31 (177), 27-34.

8. SOTO A., ZAPARDIEL J., SORIANO F. Evaluation of API CORYNE system for identifying coryneform bacteria. (1994) J. Clin. Pathol., 47, 756-759.

【問い合わせ先】

シスメックス株式会社 CSセンター

〒651-2241 神戸市西区室谷1丁目3番地の2

TEL 0120-265-034

シスメックス・バイオメリュー株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号 大崎セントラルタワー 8階

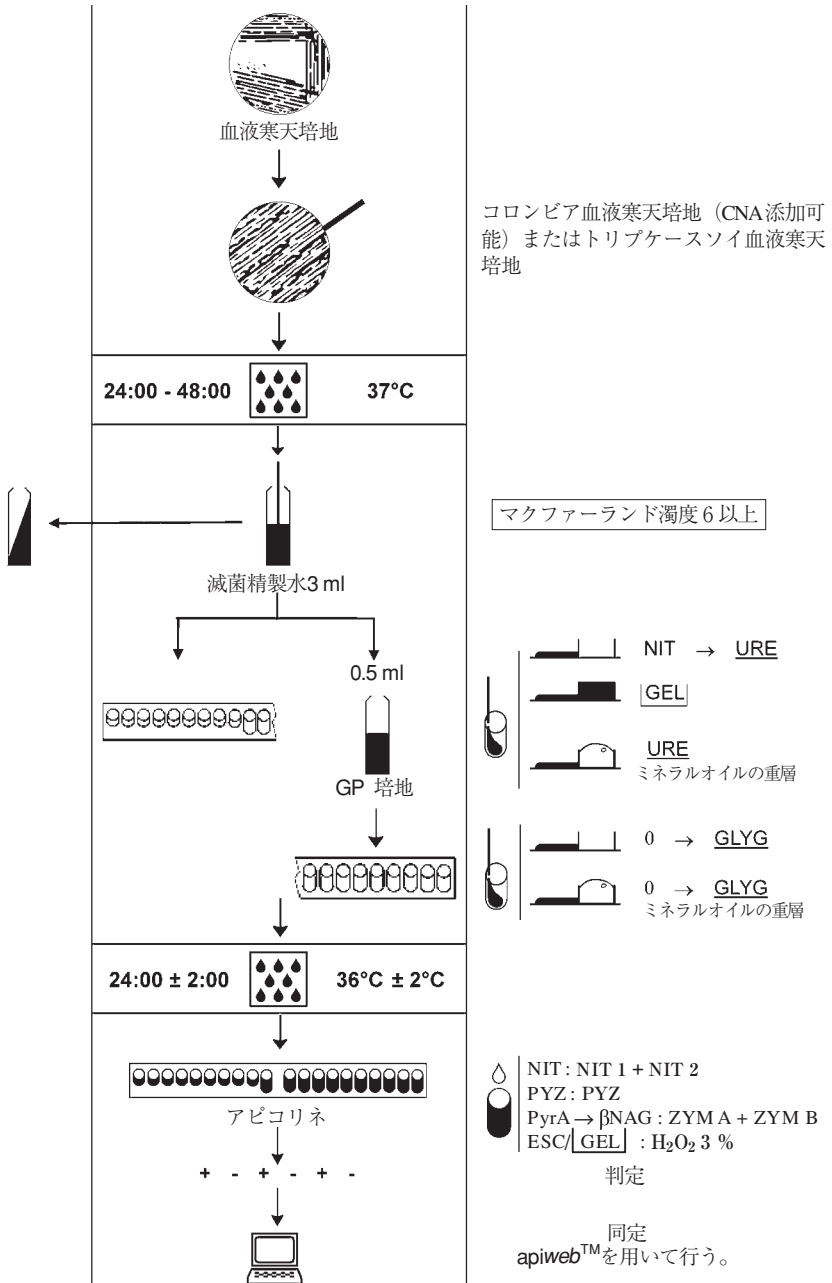
TEL 03-6834-2666 (代表)

【製造販売業者の氏名または名称及び住所】

シスメックス・バイオメリュー株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号 大崎セントラルタワー 8階

操作手順



■判定表

試験項目	基質	反応 / 酵素	結 果	
			陰 性	陽 性
NIT	硝酸カリウム	硝酸塩還元	NIT 1 + NIT 2 試薬 / 10 分後に判定 無色 ごく淡いピンク色	濃いピンク色 赤色
PYZ	ピラジンカルボキサミド	ピラジニアミダーゼ	PYZ 試薬 / 10分後に判定 無色 ごく淡い茶色 ごく淡いオレンジ色	茶色 オレンジ色
PYRA	L-ピログルタミン酸 β-ナフチルアミド	ピロリドニルアリアルアミダーゼ	ZYMA + ZYMB 試薬 (PyrA → βNAG) / 10 分後判定 無色 淡いオレンジ色	オレンジ色
PAL	β-ナフチルリン酸	アルカリフォスファターゼ	無色 ベージュ～淡い紫色 淡いオレンジ色	紫色
βGUR	ナフトール ASBI- β-D-グルクロン酸	β-グルクロニダーゼ	無色 淡い灰色 淡いベージュ色	青色
βGAL	2-ナフチル-β-D-ガラクトピラノシド	β-ガラクトシダーゼ	無色 ベージュ～淡い紫色	紫色
αGLU	β-ナフチル-O-D-グルコピラノシド	α-グルコシダーゼ	無色 ベージュ～淡い紫色 淡い緑色	紫色
βNAG	α-ナフチル-N-アセチル-β-D-グルコサミニド	N-アセチル-β-グルコサミニダーゼ	無色 ベージュ～淡い紫色 淡い茶色 淡い灰色	茶色
ESC	エスクリン	β-グルコシダーゼ (エスクリン)	無色 灰色	黒色
URE	尿素	ウレアーゼ	黄色 オレンジ色	赤色 ピンク色
GEL	ゼラチン	加水分解 (ゼラチン)	変化なし	黒色色素の拡散
0 GLU RIB XYL MAN MAL LAC SAC GLYG	陰性コントロール ブドウ糖 D-リボース D-キシロース D-マンニトール マルトース 乳糖 白糖 グリコーゲン	発酵 発酵 (ブドウ糖) 発酵 (リボース) 発酵 (キシロース) 発酵 (マンニトール) 発酵 (マルトース) 発酵 (乳糖) 発酵 (白糖) 発酵 (グリコーゲン)	赤色 オレンジ色	黄色 黄色～オレンジ色
CAT	(ESCまたは GEL 試験)	カタラーゼ	H ₂ O ₂ (3 %) / 1 分後に判定 発泡なし	発泡あり

陽性率表 (36±2℃、24時間±2時間培養、単位%)

API CORYNE	V3.0	NIT	PYZ	PYRA	PAL	BGUR	BGAL	AGLU	BNAG	ESC	URE	GEL	0	GLU	RIB	XYL
<i>Actinomyces neuii ssp anitratus</i>	0	100	0	63	0	100	100	0	0	0	0	0	54	89	10	
<i>Actinomyces neuii ssp neuii</i>	99	100	0	1	0	100	100	0	0	0	0	0	97	89	24	
<i>Actinomyces radingae</i>	0	100	0	0	0	100	100	100	100	0	0	0	42	50	35	
<i>Actinomyces turicensis</i>	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	1	0	0	
<i>Arcanobacterium bernardiae</i>	0	100	71	0	0	0	100	0	0	0	0	0	50	100	0	
<i>Arcanobacterium haemolyticum</i>	4	90	59	90	18	85	87	83	0	0	1	0	100	83	1	
<i>Arcanobacterium pyogenes</i>	1	1	98	71	99	96	98	47	1	0	99	0	100	100	96	
<i>Arthrobacter spp</i>	31	100	62	56	37	56	75	14	31	1	50	0	1	1	0	
<i>Brevibacterium spp</i>	25	70	70	92	0	20	62	20	20	0	66	0	25	20	7	
<i>Cellulomonas spp/Microbacterium spp</i>	42	100	31	22	1	82	100	68	98	0	25	0	100	22	68	
<i>Cellulosimicrobium cellulans</i>	98	100	90	98	1	98	100	90	100	0	95	0	98	98	95	
<i>Corynebacterium accolens</i>	100	50	42	0	0	0	0	1	0	0	0	0	100	98	0	
<i>Corynebacterium afermentans/coyleae</i>	0	100	76	100	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	
<i>Corynebacterium argentoratense</i>	0	100	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	
<i>Corynebacterium auris/Turicella otitidis</i>	0	100	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
<i>Corynebacterium bovis</i>	1	42	58	100	0	90	0	0	1	60	0	0	42	1	0	
<i>Corynebacterium diphtheriae ssp gravis</i>	99	1	0	12	0	0	100	0	0	0	0	0	100	100	0	
<i>Corynebacterium diphtheriae ssp mitis/belfanti</i>	46	0	0	1	0	0	96	0	0	0	0	0	100	99	0	
<i>Corynebacterium glucuronolyticum</i>	58	100	27	1	100	14	1	0	37	62	1	0	100	47	33	
<i>Corynebacterium group F-1</i>	71	100	0	1	0	0	0	0	0	99	0	0	99	28	0	
<i>Corynebacterium group G</i>	17	99	42	99	0	0	0	0	1	0	0	0	100	100	0	
<i>Corynebacterium jeikeium</i>	3	89	5	100	0	0	0	0	1	1	0	0	98	83	0	
<i>Corynebacterium kutscheri</i>	82	64	100	0	0	0	100	0	100	100	0	0	100	100	0	
<i>Corynebacterium macginleyi</i>	93	0	38	99	0	0	1	0	0	3	0	0	100	87	0	
<i>Corynebacterium propinquum</i>	71	71	35	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
<i>Corynebacterium pseudodiphtheriticum</i>	98	93	58	53	0	0	1	0	1	92	0	0	1	0	0	
<i>Corynebacterium pseudotuberculosis</i>	2	1	0	50	0	0	50	0	0	100	1	0	100	100	0	
<i>Corynebacterium renale group</i>	6	85	0	10	100	0	0	0	0	100	0	0	100	99	3	
<i>Corynebacterium ulcerans</i>	1	1	1	99	0	1	99	1	1	99	1	0	100	99	1	
<i>Corynebacterium urealyticum</i>	1	98	0	50	0	1	1	0	4	100	0	0	0	0	0	
<i>Corynebacterium striatum/amycolatatum</i>	57	97	15	97	0	0	1	0	2	13	0	0	100	45	0	
<i>Dermabacter hominis</i>	0	0	99	96	0	100	100	100	100	0	0	0	100	99	31	
<i>Erysipelothrix rhusiopathiae</i>	1	7	70	0	0	8	0	96	0	14	0	0	67	45	0	
<i>Gardnerella vaginalis</i>	4	89	1	0	0	43	65	18	2	1	0	0	99	91	4	
<i>Listeria grayi</i>	42	92	0	7	0	0	42	92	100	0	0	0	100	100	0	
<i>Listeria monocytogenes/innocua</i>	2	66	0	69	0	4	99	99	100	0	0	0	100	1	3	
<i>Listeria spp</i>	2	29	0	58	0	1	94	73	100	0	0	0	100	28	95	
<i>Microbacterium spp/Leifsonia aquatica</i>	26	99	10	57	0	63	100	80	95	0	52	0	0	0	0	
<i>Propionibacterium acnes</i>	24	0	63	36	54	89	63	100	0	0	1	0	89	63	0	
<i>Propionibacterium avidum</i>	0	9	66	0	0	100	66	97	90	0	78	0	97	90	0	
<i>Rhodococcus spp</i>	53	71	13	97	0	1	86	1	50	20	6	0	0	0	0	
<i>Rothia dentocariosa</i>	100	100	99	21	0	0	100	0	99	0	2	0	100	0	0	

MAN	MAL	LAC	SAC	GLYG	CAT
10	36	0	10	0	99
89	89	1	75	0	100
0	42	0	0	0	0
0	0	0	1	0	0
0	100	0	0	100	0
1	99	100	50	0	1
1	99	94	56	19	1
0	0	0	0	0	100
0	25	20	20	0	100
65	98	31	98	20	100
0	98	33	98	76	100
7	1	0	28	0	100
0	0	0	0	0	100
0	0	0	0	0	100
0	0	0	0	0	100
0	0	0	0	0	100
0	0	0	0	0	100
0	100	1	1	99	100
0	100	0	3	3	100
0	27	2	97	0	100
0	100	0	100	0	99
1	50	0	92	0	100
0	21	0	1	1	99
0	100	0	100	0	100
3	6	1	93	1	99
0	0	0	0	0	100
0	0	0	1	0	100
0	81	0	0	1	100
0	0	0	0	0	93
1	99	1	13	99	100
0	0	1	0	0	100
1	71	0	69	1	100
0	99	99	100	0	100
0	1	60	0	1	0
2	97	1	13	53	4
99	100	92	17	0	98
0	100	64	8	0	100
0	100	32	2	0	100
0	0	0	1	0	99
2	0	0	0	0	100
2	78	0	66	0	100
0	0	0	0	0	100
0	100	0	100	0	100

製造販売元 シスメックス・バイオメリュー株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号 大崎セントラルタワー8階

